

SRI SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANIZATION

Divine MOTHER'S LOVE

Study Guide
EASWARAMMA DAY 2021



目次

選ばれし母	2
地上での目的を明らかにした名前.....	2
神の意志と彼女の役割.....	2
スワミと母イーシュワランマの聖なる絆.....	2
子の性格における母親の役割の重要性.....	3
スワミとその母のリーラー.....	3
純粹無垢な母の愛.....	4
質問.....	4
純真と慈悲の具現	4
スワミの人道的業績の種子.....	5
質問.....	6
スワミへの人道的アピール	6
医療奉仕と教育奉仕.....	6
質問.....	7
模範的な帰依者	7
スワミに奉仕し、スワミを呼ぶ.....	7
スワミという理想の息子.....	8
質問.....	9
子供たちへの愛	9
質問.....	11

選ばれし母

地上での目的を明らかにした名前

イーシュワランマとは誰でしょう？ イーシュワランマはイーシュワラの母〔アンマ〕です。イーシュワランマという名は、彼女の両親が付けたものではありません。嫁いだ後に、英知の人であり先見の明に恵まれたコンダマ・ラージュ（義理の父／ババの祖父）が、彼女をイーシュワランマと呼びはじめたのです。生まれた時に付けられた名前はナーマギリアンマというものでした。しかし、コンダマ・ラージュは、彼女に最もふさわしい名前はイーシュワランマであると告げたのです。彼女が将来イーシュワラの母となることがわかっていたからです。

2000年5月6日の御講話

神の意志と彼女の役割

「私は自らの誕生を決意しました。私は自らの母となるべき者を定めたのです」

1970年12月31日のこと、バガヴァン シュリ サティヤ サイババは、ボンベイ（現ムンバイ）の日刊紙「ナヴ カール」編集長の問いに答えて、このように語った。……「それは、つまり……」編集長が口ごもった。「つまり」とババが続けた。「私は自らの誕生を決意しました。私は自らの母となるべき者を定めたのです。普通の人間は、夫または妻となるべき者を選ぶのみです。しかし、ラーマ神やクリシュナ神の降臨に際しては、息子となる彼らが自らの母を選びました。そして、その時も今と同様に、同じ使命のゆえに降臨が定められたのです。すなわち、すべての人にプレーマ（愛）を与え、愛を育むことによって人間が正しい生き方を身につけていけるように導く、という使命です」

N.カストゥーリ著「イーシュワランマ 選ばれし母」序文

スワミと母イーシュワランマの聖なる絆

皆さんは気付いているかもしれないし、気付いてないかもしれません。しかし、母イーシュワランマは、亡くなってから30年経った今でも、さまざまな方法でスワミへの愛を表現し続けています。今日この日も、彼女は肉体を持って動き回っています。時には、私のところに来て、私の健康を気遣う母性を表します。

ある時、彼女は私に、みんなからハンカチを受け取らないように注意しました。私は、人々が信愛を込めてハンカチを差し出してくれたときには受け取らなければならないと彼女に言いました。彼女はこう言いました。「スワミ、間違いなくそのような高貴な人は何千人もいるでしょう。しかし、中にはハンカチに毒を塗ってあなたに差し出すような心の悪い人もいます。このことが、唇を拭くのにハンカチを使うのは危険だという証明です」。私は彼女の助言に従うことを約束しました。今でも、彼女は私の部屋に姿を現します。私の部屋で寝ている少年たちもそれを目撃したことがあります。彼女が来て私に話しかけるときにはいつも、彼らはベッドの上に座って聞いているのです。

2001年5月6日の御講話

ある日、私は少年たちに、私の腰に絹のドーティーをしっかりと巻いておくためのベルトを頼みました。彼らくれたベルトはバックルが光っていて、私が着るローブからも見えました。人々からサイババは金のベルトをしていると思わるといけないので、私はそのベルトを使いたくありませんでした。このことがあった後のある日のこと、早朝にイーシュワランマが私の部屋に来て、私に話しかけ始めたのです。

すると、サティヤジットもサイナートも、シュリニヴァースも起きてきて、私が誰と会話しているのかを知りたがりました。彼らは、エレベーターには鍵がかかっている、鍵は彼らが持っていたので、誰がどうやって私の部屋に入ることができるのか不思議に思いました。そこで私は、グリナム アンマイ（母イーシュワランマ）が来たのだと告げました。私は彼女からもらったベルトを彼らに見せました。それにはバックルがありませんでした。この世界には、このような高潔な母親がたくさんいます。しかし、イーシュワランマは選ばれし母でした。私が彼女を自分の母として選んだのです。（拍手）。それが母イーシュワランマと私の親密な関係です。

2001年5月6日の御講話

子の性格における母親の役割の重要性

14歳という若さで、スワミが世界に向けて自分の使命を宣言した後も、スワミの母親はその使命の重要な部分を担っていました。イーシュワランマを通じてスワミは、母親は犠牲、思いやり、忍耐、献身、許し、我慢、そして最も重要な自信という神聖な資質の体現者であることを、私たちに教えました。

彼女は、アシュラムで接したすべての女性の母なる神となる自信を身につけていました。スワミの励ましにより、彼女は帰依者と交流し、彼らの世話をし、彼らの苦勞を聞くようになりました。その深い知恵で、彼女は他の人々の手助けをしたものでした。プッタパルティという小さな村で、スワミは女性の地位を向上させるために社会改革を行いました。それは当時としては前代未聞のことでした。ダシャラー祭の9日目に、アシュラムの女性たちは聖なる「オーム」を唱えることを許されました。

イーシュワランマは、スワミがあらゆるカーストや人種の女性たちに与えてくれた祝福をどれほど喜んで伝えたかを伝えました。スワミは、母イーシュワランマが未亡人になっても、スワミは彼女がアシュラムのすべての祈りやヤグニヤに参加することを許可しました。神は、未亡人を排斥したり隔絶したりしないことを社会に示したのです。母イーシュワランマは、スワミにプッタパルティに留まるよう勧めた人物であり、従順な息子であるスワミはそれを聞き入れました！

2001年5月6日の御講話

スワミとその母のリーラー

その日以来、イーシュワランマが家で過ごすことは二度とありませんでした。イーシュワランマはブラシャーンティニラヤムで暮らし始めたのです。毎日、朝夕二回、スワミと話をするため、イーシュワランマは二階(スワミの住居)に上がってきました。イーシュワランマもまた、私の神性をよく理解していました。私がシヴァ神の姿をとってイーシュワランマの前に現れた時には、「どうしたのですか、スワミ?なぜ首に蛇を巻きつけているのですか?」と尋ねてきました。私は「はて、私は蛇など巻きつけてはいませんよ」と無邪気に振る舞いました。イーシュワランマは、「気をつけて。部屋の中に何匹か蛇がいます」

と言って立ち去りました。けれども後に、部屋に蛇がいなかったことがわかると、イーシュワランマは許しを請いました。このようにして、イーシュワランマは多くの機会に私の神性を体験しました。カウサリヤー(ラーマの母)とヤショーダー(クリシュナの養母)の場合も同様でした。

1999年5月6日の御講話

純粹無垢な母の愛

母の愛は、母自身が死んだ後も、ずっと長く生き続けます。その夜、イーシュワランマは二度現れました。私の部屋で眠っていた青年たちもイーシュワランマがいたことに気がつきました。青年たちはイーシュワランマに会ったことがなかったので、あのお婆さんは誰なのだろうと不思議に思いました。エレベーターの鍵は青年たちの手元にあり、部屋につながる階段ありません。「あのお婆さんは、どうやってここに来られたんだろう？」青年たちがそう言ったとき、スワミは目が覚めました。私はイーシュワランマに近づいて、なぜまたやって来たのかを尋ねました。イーシュワランマは答えました。「私は、たびたびあなたを見ないと生きていけないのです。あなたを見ると幸せを感じるのです」。そう言った後、イーシュワランマは私にいくつか忠告をしました。「スワミ、皆、自分のことを帰依者だと言っているけれど、誰が本物の帰依者で、誰が偽物の帰依者か、わかりません。完全に帰依している人は、あなたに言われたことは何でもする覚悟でいるでしょう。でも、私欲のためにやって来る人たちもいるのです。そういう人は、あなたのところへ来て望みが叶うと、あなたを忘れてしまいます。このことは、よく注意してはなりませんよ」。スワミは答えました。「それ相応の注意を払いましょう。あなたに忠告されるまでもありませんよ」。これを聞くと、イーシュワランマは笑って部屋を立ち去りました。私は、母の愛の大きさを直接証明するものとして、このエピソードを皆さんに伝えているのです。イーシュワランマは、肉体は捨てたかもしれませんが、常にスワミと一緒にいます。イーシュワランマは言いました。「私はあなたのために数多くの供犠を行い、さまざまな供養礼拝(プージャー)をしました。だから私はその靈験をよくわかっているのです。私は四十年間あなたと共にいました。私の人生は成就しました」。

1998年5月6日の御講話

質問

- 母イーシュワランマの生涯を通じて、スワミが伝えた理想とはどのようなものでしょうか？
- 母イーシュワランマのどんなところが理想的な母親の模範なのかを説明してください。

純真と慈悲の具現

イーシュワランマとスッバンマは、パンダリ・バジヤンを歌う私をうっとり眺めながら、リズムに合わせて踊ったものでした。時おり、夫のペッダ・ヴェーンカマ・ラージュが、家計のための幾ばくかのお金をイーシュワランマに渡していました。あるとき、そのお金が2アンナ残りました。当時は、2アンナあればポンポン菓子が2袋は買えました。そこで、イーシュワランマは2アンナでポンポン菓子を2袋買い、子

供たちに配りました。イーシュワランマはいつも、自分が持っているものは何であれ、人に分け与えていました。

イーシュワランマは犠牲の権化でした。イーシュワランマは自分を訪ねてくるすべての人に優しく話しかけました。スワミに無視されたといつて悲しむ帰依者には、「スワミがなさることは何であれ、あなたによって良いことなのです」と言って慰めていました。

2000年5月6日の御講話

彼女には、運命のいたずらで未亡人となってしまった若い女性たちへの慈悲があった。スワミを見ているうちに、彼女がこれらの彼女たちに接する時の愛情は、さらに大きく花開いた。多くの悩める女性たちにとって、彼女は実の母親以上の存在となった。帰依者たちは、彼女の中に尽きることのない強さと知恵の源を見出した。

“Easwaramma, The Chosen Mother” by N. Kasturi

スワミの人的業績の種子

あるとき、母イーシュワランマは、水がいっぱいに入った容器を抱えながらチットラーヴァティー川から帰って来ました。彼女と一緒に、水を満たした容器を持った一人の老女が、その重さに耐えられず大変そうに歩いていました。「お母さん、水がいっぱいの容器を運ぶのは大変ではないですか？」とイーシュワランマは尋ねました。イーシュワランマの歩調についていけないその老女は、汗を浮かべつつ答えました。「そうとも！こんなに長い道のり、抱えていくのは大変だよ。でもね、この仕事を助けてくれる子どもが私にはいないのさ。だから、重たいこれを毎日自分で運ばなくちゃならないんだよ」。この苦しみの言葉はイーシュワランマの心に焼きつけられました。

2004年5月6日の御講話

しばらく歩くうち、彼女は小さな男の子を見かけました。彼は、片方の手に石版と鉛筆を持ち、重たい本を入れた袋を首にかけて運んでいました。その子はしっかり歩くことができませんでしたが、ブッカパトナムの学校まで行かなくてはなりません。「かわいい坊や、この石版と鉛筆は何のためなの？ どうしてそんなに重い本を運んでいるの？」とイーシュワランマはその男の子に尋ねました。「お母さん、ぼくは、先生が教えてくれることをぜんぶ書き留めるために、この本を運んでいるんだよ」。イーシュワランマは、これらすべての出来事を心の中に留めておきました。

2004年5月6日の御講話

さらにしばらく歩くと今度は、幼児をおぶってブッカパトナムへと向かっているか弱い女性に出くわしました。イーシュワランマは、この女性にまた尋ねました。「あなたは、か弱くて子どもをおぶってられないように見えるけれど、なぜブッカパトナムまで、そんなに長い距離を歩かなくてはならないのかしら？」その女性は答えました。「お母さん！ほかに何が私にできるっていうんですか？このへんぴな村には私の子どもに薬をくれるお医者さんがいないのです。息子は風邪と熱に苦しんでいます。私は息子をブッカパトナムの病院まで連れて行かなくてはならないのですよ」。この出来事もまた、イーシュワランマの心に焼きつけられたのでした。

2004年5月6日の御講話

あるとき、イーシュワランマが私のもとに来て、こう願いました。「スワミ！ 貧しい母親たちが子どもを連れて来ています。この人たちには食べるものもないのです。どうか祝福してあげてください」。そこで私は、適切な助けを施し、イーシュワランマの望みをかなえました。

2005年5月6日の御講話

また、あるとき、イーシュワランマは私のもとに来て、自分の苦悩をこう打ち明けました。「スワミ！ 五歳の幼子たちが、ブッカパトナムの学校までの行き帰りを歩いて通っています。毎日そんなに長い距離を歩いたあとで、どうして勉強などできるでしょう？」。そこで私は、その子どもたちの両親を呼んで、こう助言しました。「このおちびさんたちは、学校で教師から習うよりも多くのことを自分の母親から学ぶことができます。教育を受けさせるためとはいえ、こんな小さな子どもをあんなに遠くまで行かせる代わりに、まず、自分が知っている小さなことを子どもたちに教えることができるでしょう。少なくとも自分が知っている2か3つのアルファベットを教えておあげなさい」。その後、私はプッタパルティに学校を建て、イーシュワランマの望みをかなえました。

2005年5月6日の御講話

質問

- 母イーシュワランマは、満足とは何かをどのように示しましたか？
- 母イーシュワランマは強さと知恵の具現でした。これらの理想はどのように現れていましたか？

スワミへの人道的アピール

医療奉仕と教育奉仕

ある日、私が食事をしていると、イーシュワランマが入ってきました。他の人々がついて来ようとする、イーシュワランマはその人たちに、来ないようにと言いました。イーシュワランマは私の両手を握り、懇願しました。「スワミ、私たちの村には病院がありません。なので、子供が病気になると、母親は子供をブッカパトナムまで連れていくしかありません。私はそのような苦勞を見てられません。私の子供もよその子供も、私にとっては皆同じです。だから、どんなに小さくてもよいのです。どうか、この村に病院を建ててください」私はその願いを叶えると約束しました。それで、私は大きな病院を建て、当時の国の大臣だったベージャワダ・ゴーパーラ・レディがその落成式を行いました。イーシュワランマはこの上なく喜びました。あまりに大きな満足と喜びに浸っていたために、彼女はその日一日中、食べ物も水もなんら欲しいと感じませんでした。イーシュワランマは、私の手をとって、これほど大きな形で自分の願いが叶えられた幸せを語りました。私は彼女に「幸せでいなさい」と言いました。その後しばらくしてから、イーシュワランマは再び私のところにやって来て、村に学校を作ってほしいと望みました。彼女の願いにより、私は学校を建てました。最初は小さなものでした。のちに私はそれを大きな校舎にしました。イーシュワランマはたいそう幸せでした。彼女はその学校に行き、子供たちにキスをして愛を降り注ぎました。彼女はの上なく幸せで、「このカリの時代に、何であれ私が望んだことをしてくれるあな

たのような息子を持って、私は本当に幸せです」と言いました。次に、イーシュワランマは、村に飲み水が供給されることを望みました。私は、それは実現することを約束しました。水不足を補うための掘り抜き井戸がいくつかあったのですが、それらは短期間のうちに使い物にならなくなっていました。そのため、私は旧マンディルに大きな井戸を掘りました。意図が善いものであれば、結果も善いものとなります。私の意図は善いものであったので、わずか7フィート〔約2メートル〕掘っただけで、きれいな水が大量にほとぼしりました！水を汲む人々のための入口が、マンディルの裏側に設けられました。

2006年5月6日の御講話

母イーシュワランマもそのような崇高な願望を持っていました。サイの栄光が遠くまで広まり始めたある日、彼女は私のところに来てこう言いました。「スワミ、私たちの村の小さな子供たちが、学校に通うためにわざわざブッカパトナムまで歩いて行くのを見ると心が痛みます。小さな学校を建ててください」と言いました。彼女の願いを受けて、私は小さな学校を設立しました。しばらくすると、彼女はここに小さな病院も作ってほしいと言い出しました。彼女は、母親たちが治療のために自分の子供をわざわざブッカパトナムまで連れて行くのを見るのに自分は耐えられないと言ったのです。そこで、私は小さな病院を建てました。

私が設立した小さな学校は、今では大きな大学になっています。私が建設した小さな病院は、特別専門病院になりました。（拍手）。これらの大きな仕事を成し遂げることができたのは、母イーシュワランマのサティヤ サンカルパ（崇高な願い）とサイのニッティヤ サンカルパ（神聖な意志）のおかげです。母の最後の願いは、村に飲み水を提供することでした。彼女は、女性たちが深い井戸から水を汲むのに大変苦勞しなければならないことを指摘しました。私はすぐに村に飲料水を提供しました。今では、シュリ サティヤ サイ恵みの水プロジェクトの下で、アナンタプル地区全体に飲料水を提供しています。

2001年5月6日の御講話

質問

- 母イーシュワランマは、その謙虚さと苦しむ人々への慈悲深さで知られています。スワミはどのようにして彼女の人道的な願いを叶えたのでしょうか？
- 日々の生活の中で母イーシュワランマを見習うには、具体的にどうしたらいいでしょうか？

模範的な帰依者

スワミに奉仕し、スワミを呼ぶ

一人の母として、万人に向けられた彼女の愛は純粹で、無私で、無条件だった。彼女が、自らの愛を拡大し深めていくというこの務めを全うできたのは、ババの教えと恩寵によるところが大きい。ババは、ダルマについての講話の中で、婦人は神の恩恵の具象体を代表する存在であると解き明かしている。イーシュワランマは、不屈の精神と柔和さ、謙虚さに恵まれ、靈的探究への天性の資質も備えていた。また、知的で注意深かった。サイの最も身近な帰依者として、イーシュワランマはサイに助けられながら、理想

的な女性としての高みに自らを引き上げていったのである。

N.カストゥーリ著「イーシュワランマ 選ばれし母」序文

1972年の夏期講習中のある日、彼女は朝食後にホールに座っていました。スワミは二階にいました。突然、イーシュワランマは、「スワミ」と（三度）呼びました。私はイーシュワランマに、「今、行きます。逝ってはなりません」と言いました。その場にはゴーカク〔のちのサイ大学副学長〕がいて、なぜ私がそんなことを言うのか驚いていました。私は急いで下に降りていきました。イーシュワランマは私の両手を握って言いました。「私はこの夏期講習にすっかり満足しています。恩恵を受けているのは学生だけではありません。私ですら広い心を持てるようになりました。スワミ、私は逝きます」イーシュワランマは私に礼（プラナム）をして安らかに亡くなりました。誰もが安らかな死を願っています。悪い感情を持っていない人は安らかな死を迎えます。イーシュワランマの中には、よこしまな感情はほんの少しもありませんでした。だからイーシュワランマはいつも喜々としていたのです。

2001年11月19日の御講話

イーシュワランマの善良さを示す小さな出来事をお話ししましょう。バンガロールで夏期講習が開かれていました。午前7時には学生たちに朝食を出さなければなりません。学生たちはナガラ サンキールタン（隊列を組んでバジャンを歌いながら歩くこと）に出かけて、六時に帰ってきました。私は、ナガラ サンキールタンを終えた学生たちにダルシヤンを与え、その後、水浴に行きました。一方、イーシュワランマはすでに水浴を済ませて、いつもどおり幸せな気持ちで朝のコーヒーを飲み終えて、館内のベランダに座っていました。

突然、イーシュワランマは浴室のほうに向かって歩き出し、「スワミ、スワミ、スワミ！」と三回叫びました。それに対して、私は、「行きます、行きます」と答えました。その間にイーシュワランマは息を引き取りました。善良さを示す、これより偉大なしるしがあるのでしょうか？ イーシュワランマは世話も看護も必要としませんでした。死に際にスワミが記憶の中に現れるのは、ごくわずかな人だけです。通常、心は、宝石や高価な物など、何らかの物品その他を求め、その対象物の上に留まります。

イーシュワランマは一階から「スワミ！ スワミ！」と私を呼び、私は「行きます、行きます」と答えました。それから、イーシュワランマは息を引き取ったのです。それは、象（鱈に捕らわれていたガジェンドラ）が神（ヴィシュヌ神）を呼び求め、祝福を与えるために神が象のもとへと向かったかのようでした——二本の電線がつながるや、瞬時に解き放たれるのです。

これが、生涯かけて得ようと努力すべき、真正な最期です。そのとき、イーシュワランマのそばには娘のヴェーンカンマと孫のサイラージャがいましたが、イーシュワランマが呼び求めたのはスワミでした。最期の瞬間にこのような望みを抱くことは、聖なる純粋さの賜物です。それは理想的で尊崇に値する生涯のしるしです。そのような態度は、何か外からの力によってではなく、自ずと生じなければなりません。ここに学ぶべきお手本があります。

1983年5月6日の御講話

スワミという理想の息子

イーシュワランマが亡くなる前に、スワミは彼女の三つの願いをすべて叶えました。イーシュワランマ

の願いはとてもシンプルなものでした！プッタパルティの子供たちのために小さな小学校を持ちたいという彼女の願いは、初等教育から博士課程までの一貫した教育を無料で提供し、優れた学業と模範的な人格を兼ね備えたサティヤ サイ大学へと花開きました。これに触発されて、サティヤ サイ教育協会、サティヤ サイ スクール、サティヤ サイ ヒューマン バリュース教育プログラムは、世界の多くの国で価値観に基づく教育を提供しています。

プッタパルティに小さな病院を持ちたいという彼女の二つ目の願いは、プッタパルティとホワイトフィールドにある二つの特別専門病院と、二つの総合病院へと拡大しました。これらの癒しの寺院では、一次医療から三次医療まで、最新の医療を完全に無料で提供しています。この活動は、医療キャンプ、診療所、移動診療所などを通じて、何十万人もの貧しい人々に無償で医療を提供する世界的な保健ミッションへと発展しました。

彼女の三つ目の願いは、プッタパルティの住民に飲み水を提供することでした。これは、プッタパルティだけでなく、インドの他の州でも数百万人に水を提供する巨大なサティヤ サイ恵みの水プロジェクトに発展しました。これに触発された世界中のサティヤ サイ帰依者たちは、アフリカ、インドネシア、ネパール、スリランカ、エルサルバドル、その他の国々で、恵みの水プロジェクトを始めました。このようにして、母親の小さな願いが、世界中で行われている巨大な人道的プロジェクトへの端緒となったのです。

Sri Sathya Sai Speaks, Vol. 32/Ch. 14

Sri Sathya Sai Speaks, Vol. 36/Ch. 10

Sri Sathya Sai Speaks, Vol. 38/Ch. 11

Sri Sathya Sai Speaks, Vol. 33/Ch. 9

“Easwaramma, The Chosen Mother” by N. Kasturi

Sri Sathya Sai Speaks, Vol. 35/Ch. 9

質問

- 上記の出来事に基づいて、母イーシュワランマの特質と美徳を挙げてください。
- このような崇高な価値観や美徳を身に付けることから、私たちを妨げるものは何でしょうか？

子供たちへの愛

彼女は子供が大好きだったので、自然と子供たちが彼女の周りに集まってきました。彼女が物語を語っている時には、自分の体の不調も忘れていました。物語の最後には必ず、謙虚さや正直さ、愛や忠誠心といったメッセージを強調していました。

Sri Sathya Sai Speaks Vol. 36/Ch. 10

Sri Sathya Sai Speaks Vol. 38/Ch. 11

Sri Sathya Sai Speaks Vol. 33/Ch. 9

“Easwaramma, The Chosen Mother” by N. Kasturi

幼い頃の私は、ブラシャーンティ ニラヤムを訪れるたびに、幸運にも彼女に会うことができました。母イーシュワランマは、スワミの住居の裏手にある小さな部屋に住んでいました。私たち子供は、母イーシュワランマが祝福を受けるために、どこにいるのかを探して駆けずり回ったものです。私たちはテルグ語を話せなかったので、彼女と会話する機会はありませんでしたが、彼女の優しさといくつかの言葉だけで、私たちのハートを喜びで満たすのに十分でした。

母イーシュワランマは模範的な人生を送り、「すべてを愛し、すべてに奉仕する」というスワミの教えをまさに体現していました。彼女は正式な教育を受けておらず、内気で控えめな性格でしたが、バガヴァンの使命における選ばれた道具であり、教育機関や医療機関、恵みの水プロジェクトという啓示をもたらしました。彼女の模範を見て、私は、崇高な志があれば、主に仕える機会が訪れるということを学びました。それは、あなたの時間、肉体的エネルギー、善良な考え、ポジティブさ、祈り、良い仲間、インスピレーションや励ましの言葉など、何でもいいのだということも学びました。

オーストラリア、サラスワティー バスカルの体験談
sathyasai.org/events/festival/Easwaramma-day-2018

イーシュワランマは、子どもたちに、このように神聖な教えを伝えました。「私の愛しい子どもたち、あなたがたは、学ぶために学校に行っているのです。何を学ぼうとも、それを適切に役立てなさい。そのときに初めて、真に教育された者と呼ばれ、サークシャラ（真我に目覚めた者）という称号を得ることができましょう。学んだことを適切に役立てないとすれば、あなたがたは、ラクシャサ（悪魔）となってしまいます。サークシャラという称号を得られるように努力しなさい」。そして、彼女は私にこう言いました。「サティヤ！ どんなときでも、どんな状況にあっても、誰にも憎しみの感情をもってはいけません。すべての人を愛しなさい。そうすれば、あなたはすべての人から愛されるでしょう」。実際、いかなる時にも、私の中には憎しみや悪意は跡形もありません。私は万人を愛しています。それゆえ皆が私を愛するのです。もしも私たちが他者を愛さなければ、どうして私たちが他者から愛されることを期待できるでしょうか？ 愛を与え、愛を受け取りなさい。愛は一方通行のものではありません。あなたは与え、受け取るべきです。このようにして、母イーシュワランマは、子どもたちに多くの神聖な理想を教えました。

2003年5月6日の御講話

皆さんに、イーシュワランマが子どもたちに注いでいた深い慈悲と愛を物語る出来事をお話ししましょう。そのときは夏期講習が開かれており、さまざまな州や国から訪れた学生たちが参加していました。講習を統率していたゴーカクは、犠牲の精神をそなえた気高い人物でした。また、偉大な学者でもありました。彼は、模範的なやり方で講習を統括していました。

ある日、学生たちは食堂で昼食をとっていました。その中の一人が立ち上がり、他の学生たちが食事を終える前に外に出て行きました。それを窓越しに見ていたゴーカクは、彼を呼んで、彼の規律を欠いた行動をたしなめました。「仲間の学生たちが食事をしているときは、たとえ君が自分の食事を終えたとしても、途中で立ち上がるべきではない。それは、結果的に仲間への無礼となるのだよ」。そう言うと、ゴーカクは、彼に講習を受けてはならないと告げました。少年は涙を流しましたが、ゴーカクの決意は変わりませんでした。

少年は、イーシュワランマの部屋を訪ね、彼女の足にひれ伏して泣き出しました。彼は、ゴーカクから厳

しく罰せられたことをイーシュワランマに告げました。そして、自分を助けてほしい、と彼女に嘆願しました。イーシュワランマは少年を慰めてから帰しました。彼女は、ゴーカクがいつも通る階段のところに腰掛けていました。しばらくすると、彼が姿を現わしました。

彼女がゴーカクに挨拶をすると、彼も最高の敬意をこめて彼女に挨拶を返しました。すると、イーシュワランマはこう言いました。「私があなたに挨拶をすれば、あなたも挨拶を返してください。同じように、もしあなたが他の人を罰すれば、あなたもまた罰されることになるでしょう。あの少年は、自分の無知から過ちを犯しました。どうか彼を許し、講習に参加させてやってください」

するとゴーカクは「お母さん、もし私が彼を許したら、他の人に悪い前例を示すことになるでしょう。とにかく、あなたに免じて、彼のことを許します」と答えました。このようにして、イーシュワランマは、他者を助け、癒し、慰めるために心を配ったものでした。

2003年5月6日の御講話

母親のハートが清らかであれば、子供も清らかな心を持つようになります。人は自分の母親を尊敬し、決してその気持ちを傷つけてはいけません。スワミが旧マンディールに滞在していた頃、ある日、異常なほどたくさんの方が集まりました。

危険を感じたイーシュワランマは私のところに来てこう言いました。「スワミ、この人たちは何か下心があるようです。あなたに危害を加えようとしているのではないかと心配です。私は安心して眠ることができません」と言いました。私は彼女に勇気を与え、こう言いました。「恐れなくていい。肉体はいつかは滅びるものです。ですから、身体への執着を捨てなさい」と言った。その頃、私は藁葺きの小屋で一人で寝ていました。その夜、イーシュワランマが心配したように、心の悪い人たちが小屋の四方に火をつけました。

周囲は燃え盛る炎に包まれました。それを見たスッバンマとイーシュワランマが走ってきました。彼女たちが現場に着くと、驚いたことに、小屋の上に激しい雨が降っていました。しかし、周囲には全く雨が降っていなかったのです。(大きな拍手)。私が小屋から出てくると、二人は私が無事であることを確認して大喜びしました。

2001年5月6日の御講話

質問

- 母イーシュワランマは模範的な人生を送り、「すべてを愛し、すべてに奉仕しなさい」というスワミの御教えを真に体現していました。例を挙げて説明してください。
- 母イーシュワランマの生涯から、私たちは何を学ぶことができますか？



Sri Sathya Sai Scriptural Studies Committee

©2021 Sri Sathya Sai International Organization, All Rights Reserved

不許複製

sathyasai.org